

平成27年度 茨城県立海洋高等学校自己評価表

目指す学校像	教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。					
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況			
<p>地域に信頼され、愛される、産業の担い手の育成を目指して、基本的な生活習慣の確立を図った。挨拶や身だしなみは概ね良好であるが、欠席・遅刻者を減少させる必要がある。</p> <p>海洋高校生として身につけるべき基礎的技能・知識の確実な定着を図るべく、水産・海洋に関する内容を各教科の指導に取り入れる等の工夫をした。更なる定着と内容の充実を目指して、授業時間の確保と授業の改善を図る。就職状況は良好に推移しているが、進学希望者に向けた指導体制を整備充実する必要がある。</p> <p>個々の生徒への声かけを始めとするきめ細かな指導により生徒指導上も概ね良好な状態であるが、情報機器の適切な使用等、モラルの向上を図る必要がある。また、生徒情報等の職員間での共有を推進する。</p> <p>来年度の学科改編完成に向け、新鹿島丸の運航を含めて、校内体制を見直し、必要な対応を図る必要がある。</p>	地域に信頼され、愛される、産業の担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> 休まない、時間を守る生徒の育成 挨拶、身だしなみ指導を徹底及び企業実習やみんプロ、地域イベント等の推進及び企業実習の単位化の検討 ホームページ、学校説明会等の広報活動の充実 	B			
	学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の確保と授業の改善（目標の明確化、評価の改善、言語活動の充実） 生徒の学習意欲の向上（校内環境の整備、各種検定、体験学習等の学習機会の確保） 進学に向けた指導体制の整備（年次計画、ガイダンス、課外、実力テスト等） 	B			
	生徒間トラブルの未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームにおけるソーシャルスキルトレーニングの充実 アングーマネジメント研修の実施 情報モラルの向上及びカウンセリングの充実 特別支援教育委員会、教育相談委員会の活性化 学年会の活性化による生徒情報共有の促進 	A			
	学科改編完成年度（平成28年度）に向けた校内体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 新鹿島丸の運航計画と学校行事のリンク 実習棟の改築を視野に、今後の各科の実験実習のあり方を検討する 	B			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題	
教科指導	個に応じたきめ細かな学習指導を行い海洋技術者に必要な基本的技能・知識の定着を図る。	水産・海洋に関する内容を各教科の指導に取り入れ、興味・関心を高める。	A	B	水産、海洋技術者の育成の一層の推進に向けて、専門的な内容のコミュニケーション能力を意識した教育活動を展開する。	
		基本的な内容から実践的な内容にわたる実習を系統的に実施する。	A			
		言語活動を重視した授業を展開し、コミュニケーション能力を育成する。	B			
		進路実現を支援する実践的・発展的な学習を取り入れる。	B			
教科	国語	生徒の実態や進路に応じた授業を行い、海洋高校生として必要な基礎的学力を養成する。	教科書や副教材を使用し、漢字・語彙力を育成する。	A	A	作文を授業時にもっと取り入れられるように工夫する。
		作文やスピーチ指導を通して、表現力を高める。	B			
		様々な文章に触れ、読解力を深める。	A			
		進路を意識した授業内容を実践する。	A			
	地理歴史	個々の実態と現状を把握し授業を行いながら発言する場を多く設定し、興味・関心を高める。水産に関する知識や地理的要素の内容にも触れる。	ITを取り入れきめ細かい指導を行う。	B	B	発言の場を多く設定し、個々の考えやまとめた内容を話せるようにする。日本の文化を愛し、世界における日本の伝統・文化に関心を深め内容に触れる。
			生徒の学習状況を観点別に捉え、指導と評価の一体化により1人1人の学習意欲を高める。	A		
			小テストなどを計画的に実施し、学習内容の理解と定着化を図る。	B		
公	社会事業や世界の出来事について	調べ学習、プレゼンテーション、作業などを取り入れ、生徒が主体的に学習する機	A	B	調べ学習を取り入れ、グループ	

民	て関心・理解を高め、情報を正しく利用し、世界の情勢に関して理解できる能力を育成する。	会を提供する。 基礎学力の定着と進路実現に向け、生徒に応じた丁寧な指導を行う。		B	討論・プレゼンなどの場を設定し、人前での発言やまとめる力や聞く態度を養う。また政治に関心を持たせ、選挙に直接関わる国民としての心構えを知る。
数	生徒の基礎学力の向上を図り、航海算法の基礎を習得させる。生徒全員に達成感を与える授業を展開する。	基礎計算能力を高めるとともに、言語活動を重視する。	A	B	・基礎学力向上のために、能力に差がある生徒達に合った分かる授業の工夫を一層推進する。
		海洋に関する内容の指導を積極的に実施する。	B		
		「何が必要か」を正確に把握し、目標を設定する。	B		
		進路実現のために検討を重ね、幅広い内容の学習を実施する。	A		
理	生徒の実態に応じた授業内容や教材を工夫し、水産・海洋分野との関連づけも考えていく。	生徒が理解し、興味・関心を高められる授業を工夫する。	A	A	・科学的なものの見方を養い、基本的な計算問題を解く力を高める教材を工夫する。
		小テストなどを行い生徒の理解度を分析し、授業に反映させていく。	A		
		科学的なものの見方を育てていくとともに、生徒が考えをまとめ、発表する言語活動を重視した授業を行う。	B		
保	基礎体力の向上を図ることのできる資質や能力を育てる。	生涯スポーツを意識した種目を選択して生徒のニーズに応える。	A	A	・規律ある行動を身につけさせる。 ・基礎体力の向上に努める。 ・健康で健やかな生活を送る知識を身につけさせる。
		能力別やチーム力に均等なグループ編成を工夫し、楽しく活動できるようにする。	A		
		スポーツランキングを取り入れ、楽しみながら基礎体力の向上を目指す。	B		
		能力に応じた簡易ルールを工夫し、誰でも楽しめるようにする。	A		
		それぞれの役割分担を明確にして責任ある行動を促す。	A		
体	生涯を通じてスポーツを継続していくための基礎知識を身につけさせる。	施設や用具の安全で適切な使用方法を指導する。	A		
		生涯を通じて自らの健康を適切に管理する能力を育てる。	A		
科	書道を通じて日本の伝統文化に関心を持たせ、生活に役立つようにさせる。	硬筆にて美しい文字の書き方を指導する。	B	B	・筆ペンを使った、生活の中での書を学ばせたい。
		個々の能力に合わせた指導により、書に興味・関心を持たせる。	B		
		2学年では創作の時間を多くして、書の楽しさを感じさせる。	B		
外	生徒の実態に応じた授業の展開と、個人レベルまで学習をサポートする教科指導を進める。	水産系高校の生徒としてしておきたい知識（近海の魚の名前や船に関するもの、または海事英語との連携）の習得を目的とした授業を取り入れ、定期考査へも反映させる。	B	B	・今年度は英検を受ける生徒が増えた。次年度は更なる生徒増と上級を目指し努力させたい。 ・次年度から通年でALTが来校するので、TTの改善を進めたい。
		生徒の習熟度に合わせた授業を展開するための、生徒の習熟度と3年間の教育課程を見越して独自のワーク教材を系統立てて作成する。	B		
		実践的コミュニケーション能力の育成を目指し、平易な英語を使って生徒ができるだけ多く発語し、自己表現できる場を増やしていく。	A		
		実力テスト（外部模試）や検定を利用し、生徒の学習意欲を向上させる。	A		
家	自身の自立と地域の共生を目指す。	家庭や地域の生活に関心を持たせ、生活の充実・向上を図る。	B	B	・基礎・基本の定着に向けて、教材の精選に努める。 ・学習意欲を高めさせる授業展開の工夫が必要である。
		実習を通じて、基礎的・基本的な技術を身につけさせると同時に、衣・食・住について生きる上で必要な知識を身につけさせる。	B		
		学習を通じて領域に拘わらず、水産に関する内容を扱い、日々の生活に結びつける。	C		
水	専門教科に対する興味・関心・学習意欲を高める。 就業を意識した実践的な実験・実習を展開する。	授業の進め方の工夫により、海洋技術者に求められる知識・技能の習得に向けて、学習意欲を高めさせる。	B	A	・基礎基本から応用、さらに実践的な発展的内容までを3年間を通して段階的、体系的に学べるシステム作りを更に推進する。
		個に応じたきめ細かな指導により、基本的な技能の習得を図るとともに、実践的な技術を紹介・指導し、就業意識を高める。	A		

	個々の適正に応じた専門指導を総合的に行う。	専門分野に係る資格取得の奨励・推進や、地域と連携した教育活動への参加などを通して、生徒の適正と将来を見据えた総合的な指導を展開する。	A		
	校内体制の見直し。	将来を見据えて、今後の各科の実験実習の在り方を検討する。			
教 務	授業時間の確保と授業の改善。	授業毎の目標の明確化、評価の改善及び言語活動の充実。	B	B	・海洋高校の生徒に求められる能力を養うことを常に意識した授業、評価を学校全体で実践する。
	生徒の学習意欲の向上。	校内環境の整備、各種検定や体験学習等の学習機会の確保。	A		
	新鹿島丸の運航計画と学校行事のリンク。	運航計画に即した行事予定の策定及び行事運営方法の改善。	A		
	進学に向けた指導体制の整備。	実力テストデータの在り方の検討及びデータの有効活用。 年次計画の行事予定への反映。	B		
特別活動	生徒会活動の自主的な運営。	生徒による学校行事の主な企画、運営。 生徒会を中心として、地域イベントや企画に積極的に参加、協力。	B A	B	・生徒会はイベント参加が増加した。主旨を理解し積極的に行う。 ・部活は指導者入替で活動率が低下したため、活発さを取り戻す。
	部活動の振興	部活動の活動率の向上。 部活動の指導者の育成及び講習会への参加。	B B		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立（学校を休まない、時間を守る生徒の育成）。	遅刻者・欠席者を減らす指導の工夫。	B	A	・あいさつや身だしなみの重点的指導、遅刻者等に対する出席状況改善への取組により、基本的な生活習慣は定着しつつある。欠課時数過多による単位未履修の未然防止対策として次年度においても継続的に指導していきたい。
		生徒、保護者、教職員間の報告・連絡・相談の徹底。	A		
		生徒指導実践サポート事業による生徒指導体制の充実、情報共有の促進。	A		
		さわやかマナーアップ運動を通じた基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚・公共マナーの向上。	A		
		スクールカウンセラーの活用。	A		
	規範意識の定着（地域に信頼され、愛される海洋高校生の育成）。	登校時の校門立哨等によるあいさつ・身だしなみ指導の徹底。	A		
		授業・集会・式典等における礼法指導の徹底、服装・髪型等の継続的指導。	B		
		校歌斉唱、制服の正しい着用等による愛校心の醸成、帰属意識の向上。	A		
		地域や家庭と連携した下校路巡回・列車添乗指導による交通・乗車マナーの向上。	A		
		関係機関と連携した交通安全・薬物乱用防止・携帯電話マナー講話等の実施。	A		
生徒間トラブルの未然防止。	家庭訪問・面談・教育相談・アンケート調査等によるいじめや問題行動の未然防止 ・早期発見・早期解消。	A			
	ソーシャルスキルトレーニングを意識した教育活動の導入。	A			
	授業、HR活動等におけるSNS安全利用、情報モラル教育の徹底。	B			
	教育相談・学習障害・いじめ・アンガーマネジメント等研修の実施。	A			
進路指導	地域産業の担い手育成。	新学科に対応した企業実習の実施。	A	A	・3年間を通じた計画的な進路指導を実施し、生徒や保護者へ十分な進路資料を提供するとともに、各学科の特性に即した進路理解を促進させる。
		本校の特色に即した求人企業の開拓。	A		
	早い時期からの進路に関する関心・意欲の向上	進路ガイダンスや企業実習、学年集会等を通じた計画的な進路指導の実施。	B		
	就職・進学に向けた学力等の向上。	各学科と協力し、就職に向けた試験対策及び面接指導の実施。 学年や各学科、各教科と連携し進学に向けた課外授業等の実施。	B B		
	進路情報の提供ときめ細やかな進路指導。	就職先や進学先の受験情報を収集し、対応した受験対策の提案。	A		
		各学年での進路ガイダンスの実施と各クラスでの進路講話の実施。 進路の手引きや進路だより、保護者説明会等での進路情報の提供。	B B		
渉 外	PTA活動の活性化	役員会及び委員会活動の充実と活性化。	C	C	・各委員会活動への参加率増加。
		広報紙及び学校通信等による保護者、地域住民への広報活動。	B		

図 書	蔵書の整理。	蔵書のデータベース管理。	A	A	・購入した本の所在をわかりやすくする。
		内容が古くなった図書の選別及び廃棄作業。	A		
		有効的な購入図書の選定。	A		
	図書室の利用促進。	開館利用時間の工夫。	B		
	図書館公報の推進。	A			
	図書委員会の活性化。	本の整理、蔵書登録、読書会などの作業活動。	B		
保健衛生	健康に対する意識の向上と保健指導の充実	健康診断と効果的な事後指導の実施。	A	B	・行事の目的に沿った保健指導をさらに充実させていく。 ・地域の関係機関との連携にはさらに気を配り、効果を高めていく。
		各種学校行事における保健管理・指導の徹底。	B		
		生徒の実態に合わせた保健だよりの発行。	A		
		学校環境衛生検査の実施。	A		
		生徒保健委員会の活性化。	B		
		地域の関係機関・団体との効果的な連携。	B		
情 報	生徒及び職員の情報機器利用環境の整備。	情報機器の維持管理。	B	B	・情報機器の整備により、セキュリティ対策の向上を図る。
		教育情報ネットワークの利用促進。	A		
第1学年	個に応じた学習指導を充実し、基礎的な内容を身につける。 望ましい集団生活を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 家庭との連携を密にする。	学習内容の精選を図り、生徒1人1人に即した授業を展開し、基礎学力の修得を目指す。	C	B	・基礎学力が低い生徒への指導は通常の授業の中だけでは難しい。以前行った基礎学力向上委員会等の組織的取り組みが望ましい。 ・入学直後の家庭訪問を三者面談に変えたが長期間担任が放課後不在にならず余裕ができ良かった。
		生徒指導部との連携及びLHRや学年集会を通じて、基本的生活習慣に対する意識の向上を図る。	A		
		1学年全課程を対象に三者面談を実施する。また、問題行動が見られた場合、直ぐに家庭に連絡し、学校と家庭で連携して指導していく体制を作る。	A		
第2学年	社会に出るために必要な資質を身につけさせ、基本的生活習慣を確立させる。 基礎学力の定着を図るとともに将来の進路を見据えた授業・実習等を実施する。 学校行事等への積極的な参加を促進する。	休まない、遅刻をしない、あいさつの励行、言葉づかい、頭髪・服装についての学年の共通認識のもとに指導を行う。	B	A	・頭髪・服装等の指導は成果が上げられた。次年度に向け、さらに推進したい。 ・基礎学力の向上は著しい成果は見られないが、徐々に向上している。
		授業を通して国語力や計算力等の基礎学力を身につけさせる。	A		
		専門教科等を通して将来の授業に必要な知識・技術を身につけさせる。	B		
		企業実習を通して将来の目標を明確にし、進路への意欲を向上させる。	A		
		修学旅行の充実を図るため国際情勢に興味を持たせ、見学地の地理や歴史・文化等についてよく理解させる。	B		
クラスマッチや体育祭へ積極的に参加させ、参加することの大切さや充実感を理解させる。	A				
第3学年	生徒の進路目標を明確にさせるとともに、目標の実現に向けた指導の充実を図る。 社会人として必要なマナーを身につけさせる。 最上級生としての自覚を持たせ、率先して学校行事や部活動に参加させる。	二者面談・三者面談を実施する。進路指導部や他の部署と協力し、基礎学力の向上や面接力の向上を目指す。また、学年各スラスで協力し、統一的な進路指導を行う。	A	A	・面接指導には各科の協力が更に必要。基礎学力の向上にも更なる工夫が必要。 ・遅刻が多いなど時間を守るという点でなお指導が必要。挨拶はできている。 ・部活、学校イベントなどよくやってくれた。
		基本的生活習慣を向上させ、社会人となる意識を持たせる指導をする。	B		
		特別活動やHR活動を通して最上級生としての自覚を持たせ、学校行事や部活動に積極的に参加させる。	A		

※評価基準 A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

